

カンボジアにおける大学との協力体制

＜王立プノンペン大学でのプログラム説明および交流協定締結＞

2月19日（火） カンボジア王立プノンペン大学を訪問し、Lav Chhiv Eav学長、Oum Ravy副学長ほか4名の王立プノンペン大学の関係者に対して、本プログラムの趣旨・概要の説明を行った。意見交換を行った後、本プログラムに賛同いただき、交流協定書調印を行った。





< National Institute of Education および JICA 訪問 >

2月20日（水）カンボジアの教員養成学校であるNational Institute of Education（NIE）を訪問し、副所長等関係者と面談した。こちらからは、ツインクルプログラムをはじめ、千葉大学および千葉大学教育学部のグローバル化への取組について説明を行った。また、NIEからは、カンボジアの教員養成のシステムについて説明があり、今後、大きく教員養成を充実させていく上で、ぜひとも、千葉大学教育学部とも交流協定を結び、ツインクルプログラムのような交流を行ってきたいとの話をいただいた。ミーティングの後には、附属学校の施設を見学し、授業参観等も行った。

続いて、JICA事務所を訪問し、JICAのカンボジアでの活動、ツインクルプログラムの説明を行い、お互いに協力していくことの要請を行った。



第3章

平成24年度のツインクルプログラム実施の流れ



第4回大学改革シンポジウム・グローバル人材育成シンポジウムにおける「ツインクルプログラム」取り組みの紹介

日 時 平成25年1月28日(月) 13:00~17:15
場 所 千葉大学西千葉キャンパスけやき会館大ホール
主 催 千葉大学学長企画戦略室
テ ー マ わたしたちが目指すグローバル人材の育成「SKIPWISE」

プログラム

13:00 開会挨拶・趣旨説明 齋藤 康 千葉大学長
13:20 来賓挨拶 常盤 豊 文部科学省大臣官房審議官
13:30 基調講演 グローバル化時代を生きるための「力」を考える
二宮 皓 放送大学副学長
14:00 千葉大学が始めるスキップワイズ・プログラム
渡邊 誠 副学長(国際戦略室長)
14:20 ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)
野村 純 教育学部教授
14:35 人文社会系のグローバル人材育成
小林 正弥 人文社会科学研究科教授
14:50 「国際化の方針」の実質化に関するアンケート結果から見えるもの
村山 俊彦 学長特別補佐(国際戦略室)
15:00 休憩(15分)
15:15 パネルディスカッション「千葉大学が目指すグローバル人材の育成」
話題提供「わたしが留学で得たもの」
白土 香織: 水産庁漁政部加工流通課水産物貿易対策室(園芸学部OG)
鈴木 志織: 黒田法律事務所英文翻訳部(文学部OG)
15:35 ディスカッション
パネリスト
常盤 豊 文部科学省大臣官房審議官、
二宮 皓 放送大学副学長、白土 香織、鈴木 志織、
柳澤 章 副理事(入試)、木下 勇 学長特別補佐(国際戦略室))
モデレータ
長澤 成次 理事(教育)
17:00 千葉大学コミュニケーションマークの発表・コンペティション表彰式
17:15 閉 会



大学改革シンポジウムにおいてツインクルプログラムを紹介した。



学生募集活動

学生募集は10月～11月28日の期間、各研究科科長の協力の下、研究科事務およびASEAN拠点大学と連携関係にある教員と協働して行われた。

海外で先生体験してみませんか？

ツイン型学生派遣プログラム(Twincle Program)

<概要>

教育学研究科と他研究科の学生がペアを組んでASEAN諸国に赴き、現地の小中高校の先生となつて、日本語・日本文化や千葉大学が世界に誇る先端技術をテーマにした授業・実験講座を実施する。

H24年度の活動の流れ

渡航前の準備

(12月スタート予定)

- ・千葉大内の理系研究科院生・学部生とともに「実験教材・授業作り」をする(講義受講)
- ・英会話の学習(単位取得)
- ・日本文化学習(講義受講)

選抜

現地

(インドネシア、他)

期間:2週間(H24年度)

宿泊施設:大学の敷地内の寮

<行うこと>

- ・小、中、高校で**教育体験**
- ・**実験教室**
- ・日本文化を伝えるイベント

帰国後

- ・教育体験の報告会(評価)
- ・現地文化の紹介
- ・TOEIC受験

対象者:教育学研究科院生、学部生
他研究科院生(学部生)

定員:40名(教育系20名+他研究科20名)

説明会開催予定

本プログラムの魅力

- ・**奨学金による支援**があります！
- ・渡航前にしっかりと**準備**ができます！
(ネイティブによる英語の授業など)
- ・ASEANの子どもたちと**交流**ができます！
- ・常夏の東南アジアで楽しい**体験**ができます！



Chiba University, Faculty of Education / Graduate School of Education
千葉大学 教育学部
大学院教育学研究科

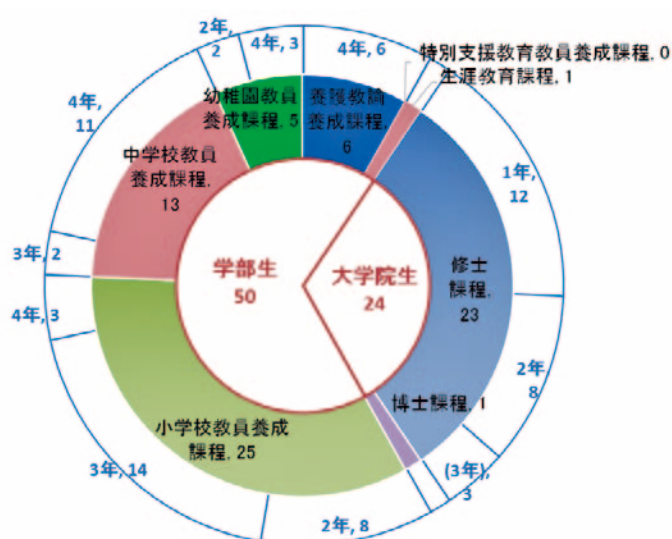
応募は指導教員からお願いします。
連絡先: m-tamura@chiba-u.jp

平成24年度ツインクル派遣学生の選抜について

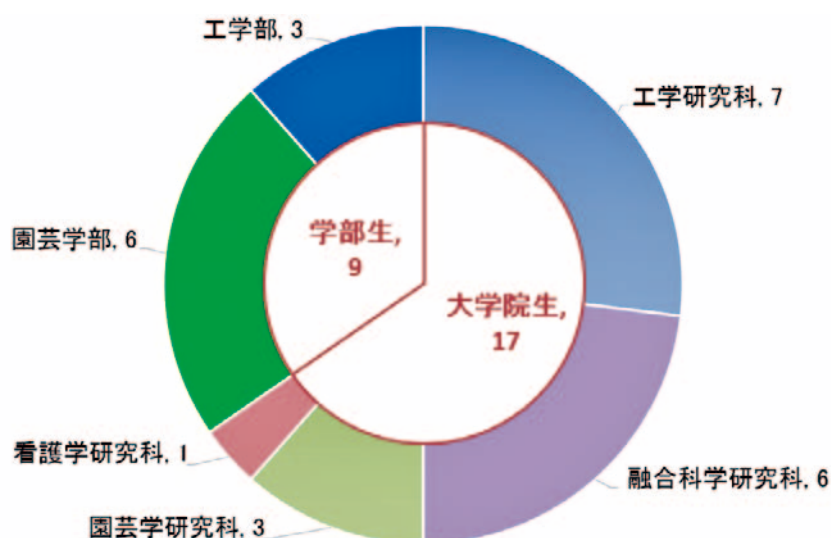
11月29日までに取りまとめられた大学院教育学研究科・教育学部関係の学生応募の総数は75名、他の研究科・学部の学生応募は26名であった。ただし、11月16日の時点で教育学研究科・教育学部関係はこの数に達していたが、他の研究科・学部からの応募は11名で、このプロジェクトが浸透するのに時間がかかったようであった。この中から各20名の派遣学生を選抜する会議を11月30日に開催した。応募時の学生所属の分類をパイチャートで示す。

第3章

平成24年度のツインクルプログラム実施の流れ

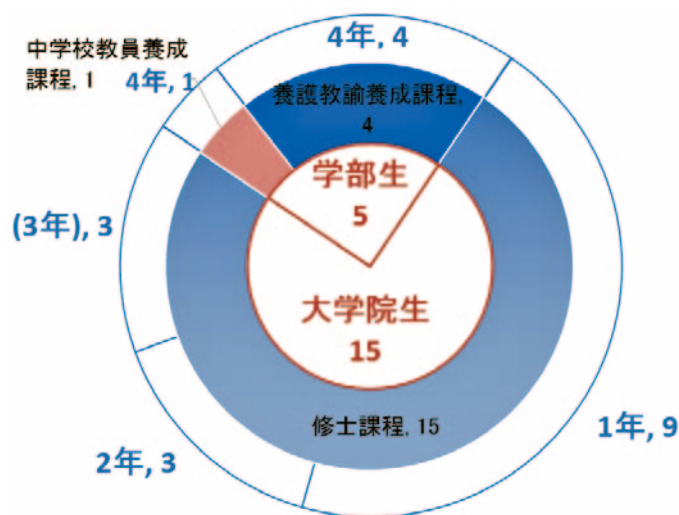


教育学研究科・教育学部からの応募学生（76名）の所属

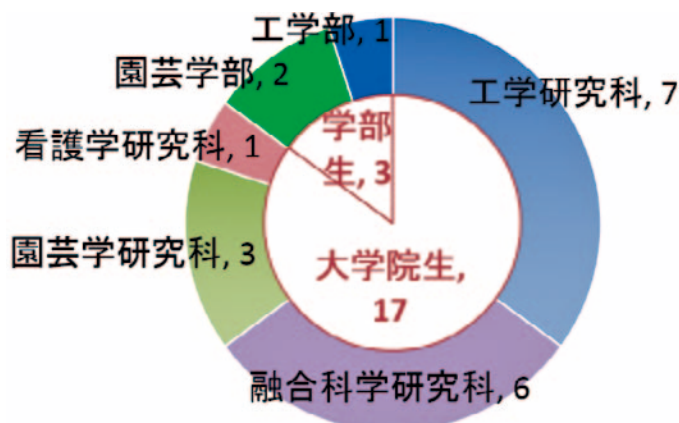


他の研究科・学部からの応募学生（26名）の所属

学生選抜の方針は語学力と専門性や興味の適性をもとに進めるものであるが、今年度は特に、他の研究科・学部に応募総数に余裕がなく、応募時に調査した派遣先大学や派遣時期（1月末から3月上旬を4期に分けたもの）の希望をもとにしたマッチングを優先した。また、ツイン型とはいえ初年度として実施体制上の不安を最小化する意味から、ふたつのペアを同時に派遣するという形でマッチングをとりながら選抜を進めた。それでも数件は学生の希望を変更してもらう必要があり、実際に学生個人との連絡が必要となるケースがあった。結果的に、各20人の選抜された学生の所属は以下のような構成となった。選抜された学生の8割は大学院生である。



選抜された学生の所属 教育学研究科・教育学部



他の研究科・学部

渡航前授業

インドネシアでの実習に備え、授業検討、クロスカルチャルトレーニング、英会話授業などを行った。また、各ユニットに指導教員を付け指導するチューター制度を導入した。英会話授業は、ブリティッシュカウンシルに委託し、授業づくりという目的に合致した実践的な授業が行われた。

1月7日（月）授業テーマ検討会（英語コースAの学生を対象）

1月9日（水）授業テーマ検討会（英語コースBの学生を対象）

1月12日（土）クロスカルチャルトレーニング、授業案作成

1月13日（日）授業案作成

1月14日（祝）授業案作成、授業検討会

（英語の授業日は「第4章 グローバルジャパンカリキュラム」を参照。）



第3章

平成24年度のツインクルプログラム実施の流れ



平成24年度の学生派遣は以下の表のように、5回に分けて行われた。

[illegible]

TWINCLEプログラム報告会

平成25年3月16日（土）に学生の研修を総括する研修報告会を開催した。活動の詳細は、「第5章 現地活動」を参照。以下は、周知するためのポスターである。

Twincle Program Progress Meeting

ツインクルプログラム

ASEAN派遣研修 活動報告会

場所：教育学部2号館2111教室
 日時：3月16日（土）

12時20分～	受付開始
13時	開会式
13時15分	研修報告会（途中休憩を含む）
16時15分	閉会

それぞれのグループが日本での授業計画や現地での授業実践等から得られた成果を、パワーポイントを用いて発表いたします。
 インドネシア・カンボジアで彼らが学び取ってきたことを、ご覧いただけたらと思います。
 ご興味ある方、どなたでもお越しください。（報告会は英語で行います。）





【お問い合わせ先】
 ツインクルオフィス
 TEL : 043-290-2513
 MAIL : nagayasu713@chiba-u.jp